

BCP安否確認も

建管の防災対応訓練に参加

札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は13日、札幌建管の防災対応業務訓練に参加した。大雨被害を想定して石狩管内の3地区をパトロールし、一部では河岸の土のう積みにも出動。会員企業は同時にBCP(事業継続計画)による安否確認訓練を実施した。

同建管との協定に基づき、防災対応訓練。電話で出動要請をやりとりする通信訓練や被害箇所を探し出す警戒パトロールが中心だが、3年前からは現地に重機を持ち込む実動訓練も始めた。今回は大雨による特別

札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は13日、札幌建管の防災対応業務訓練に参加した。大雨被害を想定して石狩管内の3地区をパトロールし、一部では河岸の土のう積みにも出動。会員企業は同時にBCP(事業継続計画)による安否確認訓練を実施した。

警報が発令されたとの想定で同建管事業課と千歳、当別両出張所の3管内にパトロールカーを出動。恵庭市内の柏木川では遊水地付近の河岸が決壊したとして恵庭建設(本社・恵庭)が応急復旧に出向き、トラックの荷台に載せた土のう4つを油圧ショベルで設置した。



土のうを油圧ショベルで設置した

小雨が降る中で訓練を見守った札幌建管千歳出張所の福永清人主任は「雨の中の訓練だったが手際が良かった」と評した。

訓練の実効性を検証するため、きょう14日午前10時から北海道建設会館でBCP担当者が総括会議を開く。

恵庭建設の北畑純一土木部長は「本番を見据えた訓練は効果的。実際に被害が出たら、地域の安全を守るため24時間体制で対応したい」と気持ちを引き締めていた。

一方、BCP訓練には会員企業のうち21社が参加し、各社の担当者が社員に家族の安否も含めて携帯電話やスマートフォンで確認メールを送受信した。

空知・石狩振興局・札幌建管が防災訓練

連絡体制、復旧方法など確認

札幌協・空知建協も実働訓練

空知総合振興局、石狩振興局、札幌建管は十三日、合同防災訓練を実施した。台風による大雨災害を想定し、各出張所との連絡体制や被災個所の復旧方法など

を確認。一般社団法人札幌建設業協会（岩田圭剛会長）と一般社団法人空知建設業協会（中山茂会長）も

災害時協働体制確認のため参加し、重機を用いた実働

訓練などを展開した。

札幌建管では、地域住民等から寄せられた情報や災害パトロール班からの報告をもとに、各出張所に対応を指示。出先機関の担当者が現地に出動するとともに、札幌協と空知建協に協力を要請した。

千歳出張所管内では、道道早来千歳線の冠水、柏木川で氾濫の恐れがあるという想定で、札幌協に応急作業を指示。同地区の幹事社となっている榎玉川組と恵庭建設㈱が現地に出動した。

玉川組は早来千歳線冠水に備え、バリケード設置と



交通整理員配置による交通規制を実施した。

恵庭建設は柏木川の氾濫を防ぐためバックホー一台とトラック一台を使い、一斗仕様の大型土のう四個を設置した。

事業課と千歳出張所でも道路工業㈱と宮永建設㈱が現地パトロールを実施。札幌協に現地の状況を撮影した写真をメールで送信し、電話で応急作業終了を報告した。

空知建協でも、滝川、岩見沢、長沼の各出張所で日成建設㈱、榎岸本組、榎北創が現場パトロールなどを実施した。

合同防災訓練では現地の状況を官民で共有。連絡体制の強化と、災害時の復旧作業訓練を繰り返した。

